

は じ め に

愛媛県教育研究協議会国際理解教育委員会
委員長 横田 公博

1 第13回国際理解教育研究大会

宇和島市のコスモスホール三間で開催した第13回国際理解教育研究大会は、140名以上の参加者を得て、盛大な研究大会となりました。『感じよう世界と日本 見つけよう国際理解教育』～コミュニケーション能力の育成を目指して～を大会主題に、講演や研究実践報告、模擬授業、海外レポート等、現在の教育課題に沿った内容を盛り込みました。

講演では、宇和島市ご出身の国連開発計画ラオス事務所次長の久保田あずさ氏を迎え、「これからのグローバルな日本人とは」と題して、世界の広さや世界で働く支えとなるもの等のお話を伺い、広い視野をもつ人間の重要性を再認識させていただきました。

研究実践報告では、身近な足下からの国際理解教育について、具体的ですぐに実践できる内容が示され、多くの参加者の方々が取り組みを始められているのではないかと思います。

今回の大会は、南予、宇和島で開催される3回目の大会です。宇和島市、愛南町、鬼北町、松野町、それぞれの地域の先生方を中心に、企画・立案・運営をしていただきました。この大会を通じて、南予をはじめ愛媛県の国際理解教育のレベルの高さを実感した大会でした。ご尽力をいただいた先生方に厚くお礼を申し上げます。

2 これからの国際理解教育

国際理解教育の最大の課題は「平和な世界を築いていくためにどのような人間を育てていけばよいか。」であると考えます。文部科学省から出されている道德教育の改善・充実に関する文書において「グローバル社会の中での我が国の伝統文化といったアイデンティティに関する内容や国際社会の関わりなど、今後の社会において特に重要と考えられる内容について留意する必要がある。」とされ、道德教育と連携した国際理解教育の進め方が問われています。

近年の世界情勢の劇的な変化や東日本大震災以降、日本人の価値観が社会に役立つことを目指して生きる傾向へと移行し、社会貢献意識が高まってきたことから、間接的に環境や社会に貢献するエシカル（倫理的・道德的）消費が増えてきていると言われています。

また、日本語使用の中で会話をしている状況や会話の相手の気持ちを読み取っていく力、つまり「察する力」の向上により、「共感」「思いやり」等の能力を発達させていく「タタミゼ効果」によって養われる力は、今、まさに求められている力であると思います。

このような中で、国際社会において地球的視野に立って、主体的に行動するために必要な態度や能力の基礎を育成する教育について考えていかなければならないと思います。

3 おわりに

本研究委員会では、「いつでも だれでも どこでも取り組める 国際理解教育」をキャッチフレーズに、学校教育における国際理解教育のあり方を、全教育活動を通して深めるとともに、県下各支部との交流による研究交流を推進してまいりました。その成果を県下各支部の国際理解教育に生かせる研究を、引き続き進めていきたいと考えています。

最後になりましたが、本研究推進にあたり、ご指導ご鞭撻賜りました関係各位、並びに、本研究紀要作成のために原稿をお寄せ頂きました皆様に、心から厚くお礼申し上げます。